

言語構造の普遍性と多様性に関する研究



国際言語文化学科

ながの あきこ
長野 明子

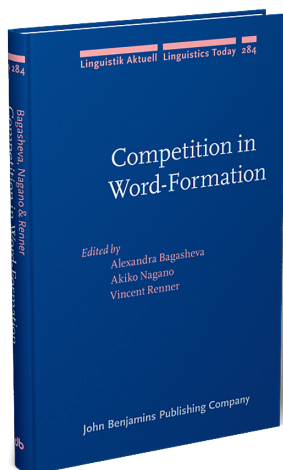
● 連絡先

TEL : 054-264-5354

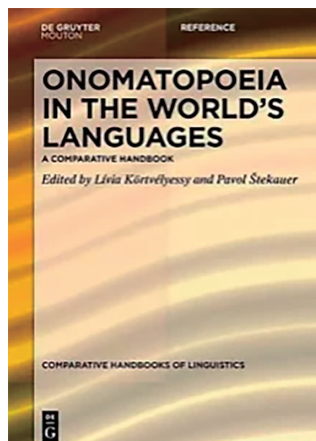
E-Mail : nagano.9@u-shizuoka-ken.ac.jp

キーワード 言語学、英語学、言語理論、
言語変異・変化、形態統語論、語彙意味論

ノーム・チョムスキー（米国の言語学者、1928-）によって開始された生成文法理論を基盤にして、人のこころに表示される自律的体系としての言語について研究を行っている。チョムスキーは、幼児の母語獲得の事実から、人は皆、生得的に普遍文法をもつと仮定した。だがこの仮定にたつとき当然疑問になるのが、世界の言語の多様性や日本の地域方言の多様性である。また、言語は常に変化するという事実についても、どう考えればよいか。言語の普遍性と多様性に関するこうした問いにさまざまなデータや分析枠組みを用いて取り組んでいる。これまで日本のみならずヨーロッパ各国の研究者らと研究プロジェクトを実施し、文法や語彙の諸現象について記述と理論に基づく分析を行ってきた。例えば、言語学の代表的出版社から「語形成における競合」についての論文集を出版したり、「世界の言語のオノマトペ」ハンドブックに日本語の章を寄稿するなどしている。



Bagasheva, Nagano, and Renner (eds.)
2024. Competition in Word-Formation
[Linguistik Aktuell/Linguistics Today,
284] Amsterdam/John Benjamins.
<https://doi.org/10.1075/la.284>



Körtvélyessy & Štekauer (eds.) 2024.
Onomatopoeia in the World' s Languages
[Comparative Handbooks of Linguistics]
Berlin/De Gruyter Mouton.